

**平成 28 年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
生涯学習推進基本講座【道南会場】事業報告**

○ 事業の概要

- 1 研修テーマ 人口減少問題に対応した社会教育行政の在り方
～行政間連携と地域住民との協働に向けた方策について～
- 2 目的 人づくりと地域づくりに資する生涯学習を推進するための体制整備としての計画策定・評価及び事業企画に関する基本的・実務的な知識や技術などについて理解を深める。
- 3 主催 北海道立生涯学習推進センター
北海道社会教育主事会協議会（日高管内社会教育主事会）
日高管内社会教育職員研究協議会
日高管内社会教育委員連絡協議会
- 4 協力 北海道教育庁日高教育局
- 5 期 日 平成 28 年 11 月 18 日（金）
- 6 会 場 新ひだか町公民館（新ひだか町静内古川町 1 丁目 1－2）
- 7 対 象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）生涯学習・社会教育関連施設職員、青少年教育施設職員、社会教育関係団体職員等 30 名
- 8 参加状況 参加者数 55 名 [社会教育関係職員 28 名、社会教育関係職員以外 27 名（定員 30 名）]

10:30	10:40	11:40	12:00	13:00	13:15	13:45	16:00	16:10	17:00	
受付	連絡	講義	説明	昼食	開会	事例発表	研究協議	情報提供	閉会	個別相談

9 プログラム

- (1) 講 義 「管内の社会教育関係職員に期待すること」
～人口減少問題に対応する社会教育行政を担うために～

【講師】 様似町教育委員会教育長 荒木 輝 明 氏
【内容】

地域の喫緊の課題である人口減少に社会教育行政職員としてどう対応すべきか、長年、社会教育に携わり、地域の教育を担うお立場からお話しいただき、これまで社会教育からアプローチしていたものが、学校などから求められるようになるなど、社会教育の果たす役割が益々重要となることを御教示いただいた。



- (2) 説 明 北海道立生涯学習推進センター主査 久保 大輔
人口減少に対応した社会教育行政の在り方について、行政間連携、住民との協働を視点を説明を行い、共通理解を図った。

- (3) 事例発表 「人口減少問題に対応する社会教育行政の在り方」
～行政間連携と地域住民との協働の取組事例～

「行政間連携の事例」

【発表者】 新冠町教育委員会（派遣社会教育主事）

山 口 覚 氏

「社会教育委員との協働の事例」

【発表者】 日高町教育委員会社会教育課参事



水 上 博 志 氏

【内 容】

山口氏からは、新冠町における保健福祉部や町民生活課と相互の役割を担いながら連携した事例として、「住民の健康維持・増進に向けた取組」や「子どもたちの安全で健やかな居場所づくりの取組」、「地域の教育力を活用した通学合宿事業の取組」について紹介いただき、水上氏からは、今年2月に制定公布された「日高町生きる力を育む早寝早起き朝ごはん運動の推進に関する条例」の施行後の取組として、社会教育委員が主管する「朝ごはん料理教室」や「子ども料理教室」の取組事例について発表いただいた。



(4) 研究協議

【コーディネーター】北翔大学大学院教授 谷川松芳氏
参加者が12グループに分かれ、発表いただいた管内の2事例について、成果や課題を確認しながら、「行政間連携」「社会教育委員との協働」の視点で、社会教育行政職員及び社会教育委員がそれぞれに果たすべき役割について討議した。グループからは、行政においては、「事業の効率化」や「市町村間・部局間の連携」などの必要性、社会教育委員においては、「地域とのつながり」や「人材育成」などの重要性が示された。



(5) 情報提供

【提供者】教育庁日高教育局教育支援課社会教育指導班主査
本田憲司氏
国立日高青少年自然の家主任企画指導専門職
久末考勇氏

(6) 個別相談（希望制）

【内容】事前調査の内容をもとに、計画の策定や評価等に関する個別相談を行った。

浦河町 えりも町	社会教育中期計画策定における視点について
様似町	社会教育専門職員の資質について



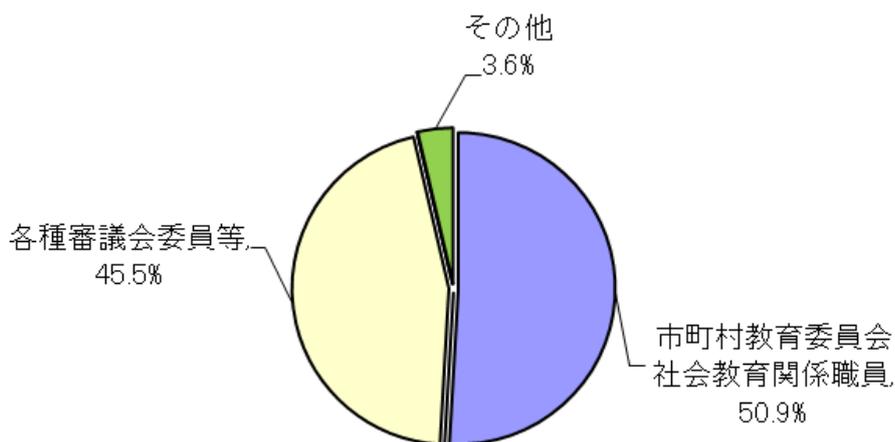
○ 事業の満足度

1 本講座参加者数 55名

(内訳) 社会教育関係職員の参加者数 28名 (50.9%)
社会教育関係職員以外の参加者数 27名 (49.1%)

2 アンケート対象者数 55名 回答者数 38名 (回収率 69.1%)

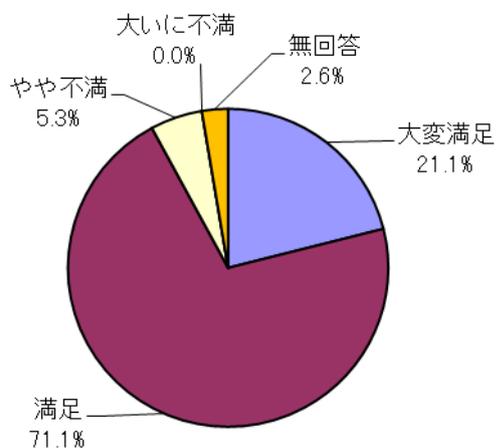
参加者(所属)状況



3 講座全体をとおして

総合満足度

大変満足・満足
92.2%

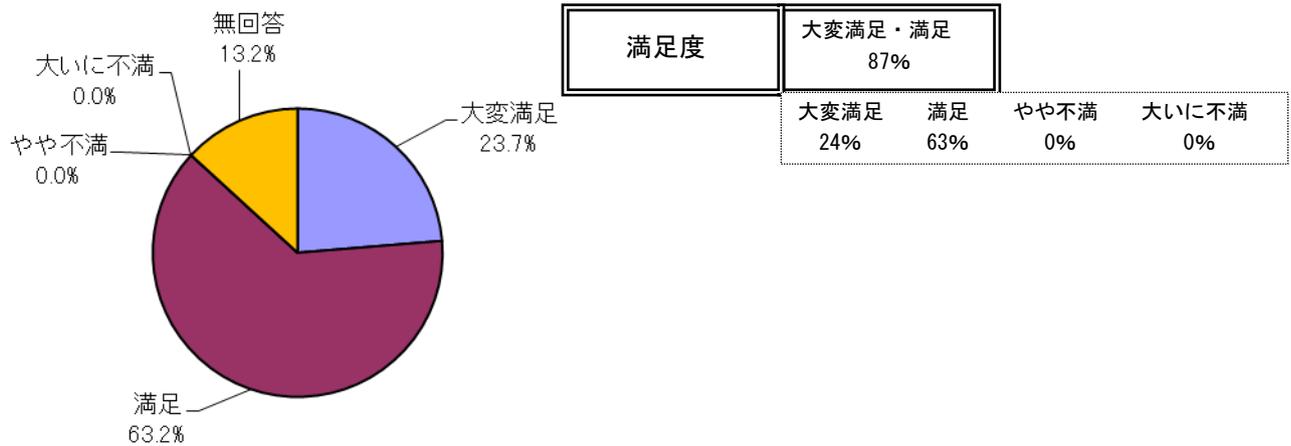


【参加者の主な声】

- 他町の連携事業について知ることができた。
- これからの委員活動のヒントを得られた。
- 社会教育委員の意見を聴くことができた。
- 様々な意見を聴く良い機会になった。

4 研修プログラムの内容について

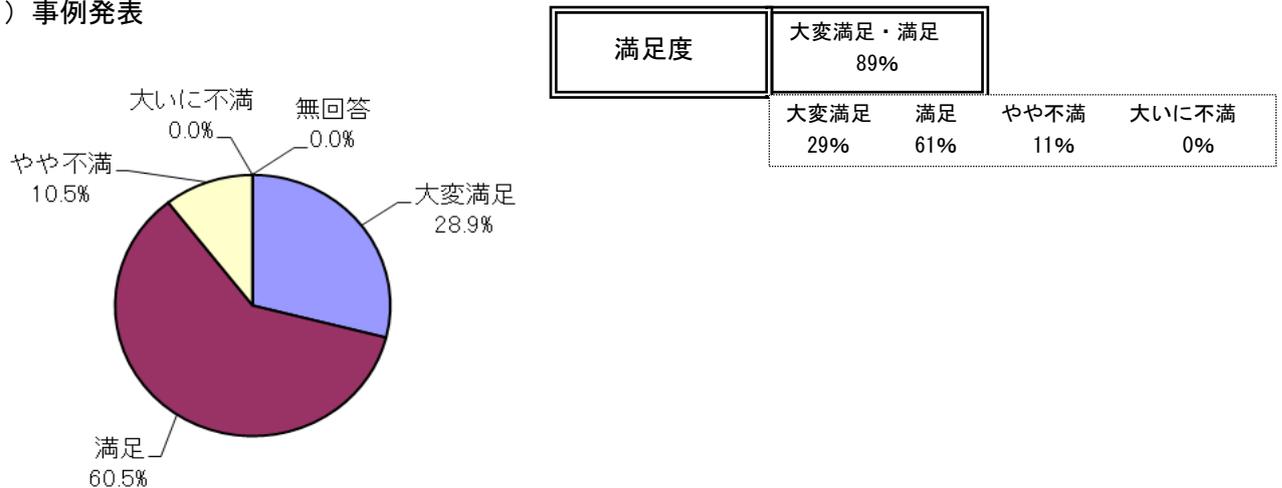
(1) 講義 「管内の社会教育関係職員に期待すること」 ～人口減少問題に対応する社会教育行政を担うために～



【参加者の主な声】

- 社会教育職員が横のつながりや管内職員とつながりを持ち、地域の財産である子どもたちを育てるべきと感じた。
- 自分のまちの教育長の話聞いて社会教育に求めるものを改めて気づかされた。

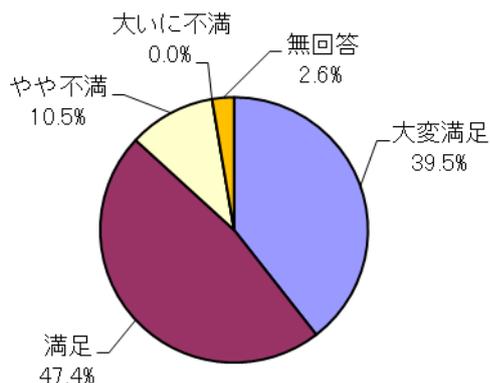
(2) 事例発表



【参加者の主な声】

- 新冠町の児童クラブの活動について考えさせられた。
- 両事例ともに参考になった。
- 他の町ではどのような取組を行っているのかという情報共有の場になった。
- 子供に特化した事例となった。

(3) 研究協議

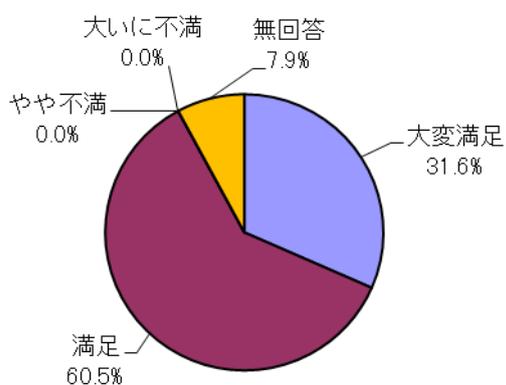


満足度	大いに不満			
	大いに不満			
	89%			
	大いに不満	満足	やや不満	大いに不満
	29%	61%	11%	0%

【参加者の主な声】

- 社会教育委員から直接話を聞くことができ、とても勉強になった。
- 少人数でのグループ討議で気後れせずに話し合うことができた。
- グループ討議の時にテーマを予め提示してほしい。
- 職員対象の議論と委員対象の議論をもう少し分けた方が良かったと思った。
- グループ討議の中で、社会教育委員の役割が不明だった。

5 研修講座の運営について



満足度	大いに不満			
	大いに不満			
	92%			
	大いに不満	満足	やや不満	大いに不満
	32%	61%	0%	0%

【参加者の主な声】

- とてもスムーズだった。
- 活発な意見交換が良かった。

6 その他、本講座をとおして気づいた点

【参加者の主な声】

- 今後、地域の役に立ちたい。
- 社会教育職員と社会教育委員の研修を一堂に行うことができ、大変有意義だった。
- 図書や文化財関係の担当者と合同というのも良い。
- 限られた時間内だったが勉強させていただいた。
- 3団体の研修は無理があると思った。